

新田園都市国際会議 2001・神戸の開催のご案内

ロンドン郊外に位置し、世界で初めての田園都市「レッチワース」が、1903年に誕生し100年を迎えようとしています。これを記念して、私達はレッチワース財団からそのプレ会議である「新田園都市国際会議2001」開催の要請を受け、アジアの地、神戸で開催することとなりました。

開催期日は2001年9月13日(木)～14日(金)。ハーバーランドの神戸新聞松方ホールで開催されます。同時通訳あり。事前申し込みにより一般の方々でも参加できます。

なぜ、神戸で開催するか

かつて、神戸市の外事係長であった生江孝之氏が日本人として初めて「田園都市レッチワース」を訪れ、その田園都市思想を1909年にいち早く持ち帰り、阪神間の良好な郊外住宅地形成に大きな影響を与えました。「田園都市思想」はやがて現代の都市計画やニュータウン計画の基礎となりました。しかし、その実態は正しく知られていません。

開催の趣旨は

今日、私達の重要な居住環境である都市と田園地域には、高齢化、地域社会の崩壊、雇用機会喪失、住環境の悪化、歴史的遺産の崩壊、犯罪、疾病等のミクロな問題が深刻化し、再生や環境改善のめどが立たない地域も出現し、これらの解決をもとめて、21世紀における都市、ニュータウン、郊外住宅地、田園地域等が抱える問題は深刻です。

「神戸」では、大震災の被害を受けた中心市街地の再生整備と共に、ニュータウンと田園地域との有機的な関係を「コンパクトシティ」や、田園地域の「里づくり」を通して模索しています。



レッチワースのまちの様子

参加する人々

この国際会議で、内外の田園都市の研究者や、レッチワース財団の代表者、アメリカのニューアーバニズムの提唱者、台湾、韓国、中国の田園都市建設を目指す13カ国の専門家が集まり討議します。これを広く一般に公開し、21世紀の新しい田園都市のあり方を、「新田園都市」(仮称)として構想します。

このことは、アジアの国々が答えを求めている現代社会の課題であり、世界の国々で住環境の改善に取り組む人々の共通の課題でもあります。神戸で開催される、この「新田園都市国際会議2001」の成果は、

2002年の「レッチワース100年の国際会議」に向けて発信することが期待されています。

問い合わせ先：

新田園都市国際会議2001・実行委員会
神戸芸術工科大学・齊木崇人研究室

TEL&FAX (078) 796-2624

E-mail : t-saiki@kobe-du.ac.jp

URL: www.go.to/gardencity で申し込みます。

10月は『こうべ男女共同参画推進月間』です！ — 月間行事のご案内 —

老若男女一人ひとりにとって、暮らしやすいまち。それは、女性も男性も、性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性が尊重されるまちではないでしょうか。

神戸市では市民一人ひとりがまちづくりの主体者であるという自覚のもとに、地域での生活課題を自ら考え、協力し合って解決する「まちづくり」を進めています。

そんなまちづくりのため、毎年10月を「こうべ男女共同参画推進月間」と定め、地域団体等の団体や市民、行政と一緒に様々な行事を行います。

身近なことから取上げたわかりやすい催しばかりです。皆さん、どうぞお気軽にご参加ください。

①シンポジウム「考えてみよう！お父さんの子育て」

と き：10月20日（土）13:30～16:00 ところ：神戸新聞松方ホール

講演「いい親やめよう」 講師 清水國明氏（タレント）

家族とともに楽しむアウトドアライフは、
趣味でもあり、ライフワークでもある。

そんな、清水國明流 子育て奮戦記を披露します。

トーク&トーク「ふたりで子育て ～私の場合、あなたの場合～」

パートナーと子育てを実践中のゲストの皆さんによる本音トーク



②「ジェンダー川柳」コンクール・入賞作品展

と き：9月29日（土）～10月末 ところ：花時計ギャラリー（市役所前地下）、あすてっぴ KOBE

ジェンダーとは、「男は仕事、女は家庭」「お茶くみは女性、車の運転は男性」など、社会や文化によってつくられてきた男女の性別役割のこと。日常生活の中にも、何気なくひそんでいるのです。

8月に募集した中から、思わずうなってしまう、鋭い入賞作品をご紹介します。

③こうべ男女共同参画フォーラム2001「ともに生きよう 21世紀～あなたとわたしは暮らすメイト～」

と き：10月14日（日）10:00～17:00 ところ：あすてっぴ KOBE

講演会「21世紀はパワフルにフルコース人生！！」 講師 米沢富美子氏（物理学者）

分科会〔健康・介護保険・地域づくり・子育て・女性が働く・情報活用術〕

交流会、パネル展示など

④シネマ&トーク『エリン・プロコピッチ』（'00・米）

と き：10月27日（土）13:30～16:30 ところ：あすてっぴ KOBE

シネマ上映とファシリテーターを交えたトーク

※ あすてっぴ KOBE は、湊川神社の西隣です（中央区橋通3-4-3：Tel.361-6977）

※ ①③④は一時保育有（2歳～就学前、定員有、無料、要予約）、①と③の講演会は手話通訳有、①は要約筆記有

※ ①③は、参加者を募集中！！ ④は10月1日より参加者募集を開始します。

《お申し込み・お問い合わせ先》

①②は、神戸市市民局男女共同参画課（Tel.078-322-5179） ※②は申し込み不要です。

応募方法：ハガキ（〒650-8570<住所不要>神戸市市民局男女共同参画課「月間シンポジウム係」）、
Fax（078-322-6034）または、e-mail（daniyo@office.city.kobe.jp）

必要事項：催し名、〒・住所、氏名、年齢、性別、電話番号、職業、一時保育希望の有無

③④は、あすてっぴ KOBE（Tel.078-361-6977） ※④は10月1日より受け付けます。

応募方法：電話（078-361-6977）、Fax（078-361-6477）または、直接あすてっぴ KOBE へ

必要事項：参加希望行事名（フォーラムかシネマの別。フォーラムは希望分科会名も明記）、〒・住所、
氏名、電話番号、一時保育希望の有無

■ はじめに

サンフランシスコ市では、NPOの活動が活発であるが、代表的な分野として、アフォーダブル住宅（低所得者用の住宅）供給において、1つの社会セクターたる地位を確固たるものとしている。最終回の今回は、NPOが成長し、大いに活用される土壌としては、日本とアメリカで何が相違するのかを考えてみたい。

■ ミッション住宅開発コーポレーション（MHDC）

MHDCが立地するミッション地区は、教会を中心に極めて活気のあるラテン地区を形成している。

MHDCは、'71年に設立され、アフォーダブル住宅の開発では25年余りの経験を持っている。また、出資した管理会社も2社持っており、約1,500戸の住宅を管理している。これらのほか、他のNPOであるフードバンクと協力し、困窮家庭への食料配給やシニア・デイケア・センターへの技術援助なども行っている。

MHDCの運営方針は、収支ゼロを目標とし、公共補助を家賃収入で回収することは考えていない。パートナーシップを組む民間企業は、NPOに投資した額だけタックス・クレジットにより法人税が節約できる。場合によっては、損失も計上でき、さらに節税も可能である。家賃収入が約5割を占め、補助金3割・寄付金2割で運営を行っている。

'94年には、事務所の隣に記念碑的な59戸の中庭型家族用タウンハウス「プラザ・デ・ソル」が完成した。特長は、通常は1寝室であるが2寝室と3寝室という広いタイプの住宅が合わせて、55戸もあることで、今までにない大型家族住宅を提供できたことである。スペイン風の中庭は、住民の子供が製作したタイルと、地元のアーティストのデザインした小石の床模様がラテンの雰囲気醸し出している。



プラザ・デ・ソル「Plaza del Sol」

さらにユニークな点は、地元のサンフランシスコ大学の学生2名を無料で住宅に入居させるかわりに、中庭に面したホーム・リンク・センターで、住民の子供たちを対象とした教育プログラムを平日午後3時から7時まで担当させている。MHDC住宅部のフィリップ部長は、「低所得者用住宅の開発で最も肝心なことは、住民が自分たちの場に対する所有意識を持ち、それを親しむことのできる住宅環境を造ることである。」と強調された。



ホーム・リンク・センター

■ 行政とNPOの関わり

サンフランシスコ市においては、アフォーダブル住宅供給は、NPOが全面的に担っている。市住宅局のD・ヒガシ氏は、「NPOはビジネスである。」とそのビジネス性を強調している。行政は、既存の市営住宅は改修するが、新規供給は全く行っていない。悪くいえば行政の放任ともいえるが、日本ではまず行政の責任にしたがるのとは市民の感覚が相違している。

NPOのビジネスとしての仕組みがある程度整備されいるため、市場原理に委ねながら行政頼みばかりではない、アメリカ国民の自己責任の強さとそのシステムを痛感する。

市住宅局は、住宅供給を行うNPOに対して、様々なプログラムを通して資金援助を行っている。

■ ビジネス性豊かなサンフランシスコNPO

サンフランシスコ市のNPOや市担当局との交流の中で感じたことは、NPOのビジネス性と成り立つシステムの多様性である。それぞれ、NPOは、非営利法人だが、ボランティアではなく、前提として運営が成り立たなければならない。

日本も、寄付金などにさらに優遇税制を施し、地域が評価し、地域に役立ち貢献するNPOが自由に設立でき、今以上に活躍できるシステムが必要であり、その時は、自治体のアウト・ソーシングが、可能になっていくのではないかと思う。

藤重 敏郎（神戸新交通㈱ 総務課総務係長）

まちなかモデルハウスが完成して…… (腕塚町10丁目のコンペによる住宅)

いきいき下町推進協議会とすまい・まちづくりフェアの共催コンペで選ばれた「まちなかモデルハウス」(8月号参照)が完成し、土、日曜日には一般公開をしています。今回は、それに先立ち8月11日に関係者・施工者・「建築をトコトン見てやろう会」の会員等による、座談会の様子を報告させていただきます。当日はお盆の関係で会員の参加が思ったより少なかったのですが、なかなか辛口の意見もあり、あっという間に1時間半がたってしまったという感じでした。

(○意見 ●回答的意見)

■完成した住宅の感想

○イメージ通り。○風通しが良く落ち着ける。

○バルコニーが無く洗濯物を干すのが困る。

■自然素材に対する感想

○木の節が多くて目立つ。●木には

枝があるので節があるのが当然。節が多いほど強い。最近では節の無い物を木と思われている。○割れが多いような気がする。●普通より少ないぐらい。

■景観に配慮された住宅について

○景観に配慮された協調住宅のため、同じ様な外観の家が並ぶが、出来れば自分の希望を入れた住宅にしたい。●質感は同じにして、外観の色を変える等で対応し調和を図りたい。○設計のコンセプトである土間空



間をいらないといわれたら? ●仕方が無いかも知れないが、出来るだけ残すように相談する。○設計者の力量に期待します。

■家は買う物でなく造る物

○洗面台が手造りになっていますが、割れたりしたら困るのでは? ●造った物はまた造れる。既製品が当たり前になっているが、家は買う物でなく、施主・大工等が顔を合わせて造るもの。○そういう技術の継承については? ●継承のためにはその仕事の需要が必要、また後継者がいない問題を解決する必要もある。

■トコトン見てやろう会

●会員が136名もいて神戸の皆さんは震災以後家に対する見方が厳しくなっている、これからもこういう活動を広めて行って欲しい。

こんな風に、建設の最初から知っている関係者が集まって言いたい放題いろいろ話をしていると、本当に「住宅はつくる」もので買う物では無い気があらためてした座談会でした。

(住宅局地域支援課 狩野 裕行)

このモデルハウス及び残りの4区画は定期借地権付き分譲住宅として販売中です。

お問い合わせ先:

㈱プフィエ(旧三洋建設) 321-0798

すまい・まちづくり実行委員会事務局

333-3396

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
9月 6日(木)~11日(火)	麓和会洋画作品展(油彩)	麓和会
9月13日(木)~18日(火)	葦の会展(第10回)(油彩)	荻野 貞雄
9月20日(月)~25日(火)	第25回兵庫倶楽部写友会写真展	兵庫倶楽部写友会
9月27日(木)~10月2日(火)	第25回ART'81展(油彩)	ART'81協会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

9月 1日(土)~30日(日)	田園都市レッチワースパネル展	都市計画局まちづくり支援室
-----------------	----------------	---------------

図書販売のお知らせ

協働のまちづくり・すまいづくり —震災復興土地区画整理における共同建替の記録—	¥1,500	別途送料を申し受けます。 申し込みは、当センターまで
--	--------	-------------------------------